

■災害の程度に応じて出される市の避難情報の種類

情報などの種類	発令時の状況	住民に求める行動
避難準備情報	○避難に時間を要する要援護者が避難を始めなければならない ○人的被害が発生する可能性が高い	○高齢者や病人、障がい者の方は支援者とともに避難所へ早めに避難を始める ○非常時の持ち出しを用意し、避難の準備をする
避難勧告	○避難を始めなければならない ○人的被害が発生する可能性がさらに高い	○避難所へ速やかに避難を始める
避難指示	○災害の前兆現象が発生し切迫している ○人的被害が発生する可能性が非常に高いまたは人的被害が発生した	○避難中の人は確実に避難を終える ○まだ避難していない人は、避難を始める ○生命を守る最低限の行動をする

事態の深刻度  
↓  
高い



# 自然災害の脅威

土砂崩れにより道路封鎖

## ゲリラ豪雨や台風に備える！

近年、全国各地で局地的な大雨や台風による風水害・土砂災害が発生し、大きな被害発生しています。これから梅雨や台風の季節を迎えます。災害から身を守るためには、日ごろの備えが重要です。家庭や地域で、風水害や土砂災害について正しく理解し、有事の際に的確な判断や行動ができるように確認しておきましょう。

問い合わせ 危機管理課 増田 ☎0058

### 災害時の情報発信

市では、災害時に下記の方法で、災害情報などを発信しています。

- 同報無線(各家庭の戸別受信機、防災ラジオを含む)
  - まきのはらTeaメール(携帯電話)
  - エリアメール(携帯電話)
  - 市ホームページ
  - 市フェイスブック
- 「マキコム」「ビタミンらぼ」



#### 【まきのはらTeaメールの登録方法】

- ①下のQRコードの読み取り
- ② [makinohara@emob.jp](mailto:makinohara@emob.jp) に空メール送信



### 市からの情報に注意を

市では、災害が発生した地域や災害が発生する恐れがある地域の皆さんに対し、避難勧告や指示をする場合があります。発令の時期(タイム)は、表の災害の深刻度によって変わります。避難する時刻や災害の見通しなどを考慮し、住民が最も安全に避難できる状況で発令します。ただし、それほど深刻でない時点でも将来を予測し、早めの勧告などを発令することもあり、結果として「空振り」となる場合もあります。住民の生命を守り、災害による被害拡大を防ぐための発令です。状況を理解し、的確な判断と行動を取りましょう。

情報は、同報無線や市のホームページ、緊急速報メールなどでも市民の皆さんへお知らせします。緊急速報メールは、携帯電話へ送信されず、災害時や災害が発生する恐れのある場合などには、このメールに注意しましょう。ただし、受信拒否設定されている場合や対応していない端末には届きません。実際に、避難勧告や指示が発令されたら、避難所へ速やかに避難してください。避難する際には、次のことに注意が必要です。

- ▼安全で動きやすい服装で
- ▼足元に注意
- ▼川や橋には近づかない

### 忘れないで4月6日の雨

平成25年4月6日の豪雨を覚えていますか。総雨量は、県の観測施設の静谷で247mm、気象庁の観測地点の萩川牧之原では、4月の観測史上最大となる24時間雨量186.5mmを記録しました。市内各地では、浸水やがけ崩れの被害も出ており、市の避難勧告の発令により、19世帯46人が避難所に避難しました。同じような豪雨が、今後も起こる可能性は十分にありま。自然の驚異から身を守るために、日ごろから備えをしておくことが重要です。

### 情報収集が重要

風水害や土砂災害対策で重要なことは情報収集です。天候の推移や河川の状況などの正確な情報を把握することが、避難行動などの判断材料になります。このような情報は、テレビのデータ放送やインターネット、洪水ハザードマップなどで知ることができます。収集した情報を基に、家庭などで災害について話し合うことが大切です。

### テレビのデータ放送

地上デジタルテレビのリモコンの「d」ボタンを押すと、データ放送により、降雨情報や河川水位などの防災情報が確認できます。河川情報はSBS、NHKの地上デジタル放送のみの提供となります。



\*「d」ボタンはテレビの機種によって配置が異なります

### 洪水ハザードマップ

市では昨年3月に、全世帯に配布。洪水による浸水箇所とその深さの想定のほか、指定避難所や救護所、土砂災害危険箇所などが掲載されています。市のホームページでも見ることができます。



### 日ごろの備えが大切

いざという時に、いつでも避難できるように、日ごろから準備しておくことが大切です。

- ▼隣近所で声を掛け合い避難はくれたり、流されたりしないよう、ロープで互いを結ぶ
- ▼地下や低い場所へは絶対に逃げない
- ▼逃げ遅れた場合には、建物の2階など、できるだけ高いところへ避難

例えば、避難経路や危険箇所を事前確認することです。洪水ハザードマップなどで、自宅周辺や住んでいる地域がどのような浸水状況になるのか確認します。また、危険箇所がどこかを把握し、避難地や避難経路を家族や地域で相談しましょう。各自で多くの情報を収集し知識を蓄え、それを皆で共有することは、自分の命や周りの人の生命も守ることにつながります。もう一つは、避難用品や非常時に持ち出す貴重品をまとめておくことです。携帯電話の充電予備電池や携帯電話の充電にも注意しましょう。

道路に溜まった水を排水する消防団



道路の一部が陥落



大雨で冠水した駐車場



### インターネット

風水害や土砂災害に関する情報を瞬時に収集できます。

「サイボスレーダー」 <http://sipos.shizuoka2.jp/sipos/index.html> 静岡県が運営しているホームページで、市内の天気予報や雨量のほか、萩間川、勝間田川、坂口谷川の水位情報やライブ映像などが見ることができます。

「エクスレイン(XRAIN)」 <http://www.river.go.jp/xbandradar/> 国土交通省が運営しているホームページで、250m四方の雨量を1分ごとに配信しています。また、雨雲の動きなども確認できます。

